

### 3.7. 管理・運営

#### 3-7-1 中期計画推進委員会

「中期計画の遂行，見直しに関する事項を審議する」委員会として法人化とともにスタートさせた。構成メンバーは，学部長，評議員，研究推進委員会，教務委員会，学生委員会，国際交流委員会，入学試験委員会，電子情報専門委員会，就職・広報専門委員会の各委員長と自己評価委員会副委員長及び事務長である。8月を除く毎月の第一水曜日に開催し，各委員会所掌事項の重要課題についての討議を行った。「ホームページの現状と課題」は定例議題とした。委員会所掌が明確でない重要課題や中期計画の見直しについても取り上げた。具体的内容については各項目に譲る。

就職・広報専門委員会の改組に伴い，平成17年度からは構成メンバーが，広報専門委員会委員長とキャリアサポートセンター長に変更される。

(中期計画推進委員会委員長 和田 進)

#### 3-7-2 人事委員会

これまでは講座を単位として人事を行ってきたが，学部・学科を単位とした人事システムに転換した。学部長，評議員，学科長から構成され，毎月の第一水曜日を定例日として開催した。

教員採用人事は，学部の戦略的観点によることとして，人事委員会が教授会に提起することとしている。教員の昇任人事，大学院前期課程の担当人事は，学科・専攻運営会議から人事委員会に申し出がなされ，人事委員会が教授会に提起することとしている。

教員選考調書のあり方を検討して，これまでの研究活動中心のものから，研究活動，教育活動，学会及び社会的活動の3分野からなる選考調書に改めることとした。

昇任人事のうち，教授昇任人事については，学科再編に伴う事情から，平成17年度から学科を単位としたものではなく，学部全体で運用することとした。具体的な運用のあり方については平成17年度に検討することとしている。

(人事委員会委員長 和田 進)

#### 3-7-3 自己評価委員会

##### 1. 中期目標・中期計画の達成と外部評価への対応の準備

大学はその理念と目的を踏まえて，教育研究水準を維持・向上させるために，組織・活動について不断に点検・評価することが求められている。神戸大学全体では，平成16年7月6日に第1回の全学の評価委員会が開かれ，神戸大学における点検・評価ポリシーが提案され，さらに情報データベース開発に向けての取組みのスケジュールが示された。発達科学部では，こうした全学の取組みに並行して，教育研究活動の質の改善や向上を目指し，今年度以降計画的にデータや資料を積み上げ，効率的な評価の仕組みを作り上げる取組みを開始した。

点検・評価は「教育」「研究(創造的活動)」「社会貢献」の各分野について，自己評価委員会内に3つの部会を設け，それぞれの分野毎の基本的観点を提示することとした。「教育評価部会」は，佐藤・白水の自己評価委員会常任委員と蛭名・藤田の教務委員会正副委員長，青木(務)評議員，「研究評価部会」は，市橋・前田の自己評価委員会常任委員と平山・青木(茂)研究推進委員会正副委員長，朴木評議員，「社会貢献評価部会」は岡田(修)・太田自己評価委員会常任委員と高橋(正)社会貢献準備室長をそれぞれメンバーとした。3部会では検討を重ね，7月21

日の教授会で評価の目的と評価項目を提示した。その後、自己点検・評価項目は「教育評価項目」「研究評価項目」「社会貢献評価項目」の他、「学生受入れ評価項目」「学生支援評価項目」「国際交流評価項目」を加えて、全部で6分野の自己点検・評価項目を提案し、平成16年10月6日の中期計画推進委員会で検討した。こうした自己点検・評価項目の検討は、今後の中期目標・中期計画の達成に資するものとなるはずである。

## 2. 学生による授業評価・教員による授業に関する自己評価の実施

上記の「教育評価項目」のうち、「教育内容・方法の改善」で、「教育内容・方法の改善に向けた取組みが行われているか」の項目が上がっている。平成16年度は履修人数の比較的多い授業科目と各履修コースの専門科目から3～6科目程度の授業科目を取り上げ、前期、後期それぞれについて、学生による授業評価と教員自身による授業に関する自己評価を実施した。この授業評価の分析結果報告については、次年度の自己評価委員会の引き継ぎ業務としたい。

## 3. 『2004(平成16)年度発達科学部年次報告書』刊行に向けて

発達科学部の平成16年度の諸活動の実態を整理し、次年度に向けての展望を構築するために、平成15年度に引き続き、『2004(平成16)年度発達科学部年次報告書』を刊行することとした。また、昨年度の『年次報告書』は「部内資料」という取扱いであったが、平成16年度版はその内容をホームページで公表する予定とした。「学部」「学科」「各種委員会」「附属センター及び附属校舎」「発達支援インスティテュート」で構成され、『資料編』も別冊子で刊行される。

(自己評価委員会副委員長 佐藤眞子)

### 3-7-4. 予算委員会

平成16年度は、国立学校法人になった初年度であり、また、新しい財務会計システムが導入された初年度に当たり、従来と異なる点などがあったが以下に報告する。

1. 平成15年度決算は、6月10日の予算委員会において審議し、6月16日の教授会において了承された。
2. 平成16年度予算の学生当経費については、平成16年度になってから実員数で学生当経費を算定し直し微調整を行うことになっていたことを受け、その修正案については、6月の予算委員会で審議し、6月の教授会で決定された。
3. 法人化に伴い、学外者が教室など学舎を使用する場合の使用料について、6月の予算委員会で意見交換が行われ、本学部における検討結果として、本学部教員が主催あるいは世話をする学会、研究会及びセミナーについては無償とする旨を本部財務課に回答した。
4. 平成16年度の教員研究費の追加配分について、11月の予算委員会で審議を行い、11月の教授会で決定された。
5. 平成17年度予算配分案の作成は、まず、学部長、評議員、事務長、事務長補佐、会計係長、予算委員長で大枠の検討を行った。平成17年度は学科再編に伴い学生当経費の算定をどのように行うかが検討課題となった。2,3年次生については、コースの学生数をコースの講座の教員数で割り、教員一人当たりの学生数を算出し、その金額を教員の移動する新学科に割り当てることにした。4年次生については旧学科の指導教員の学生数を新学科につけることにした。学生当経費は学科に配分することにし、学科で使い方を検討することになった。また、授業支援経費(200万円)を新設することにした。これの使い方は、学科からの提案に基づき教務委員会で審議し、学部長が決定することになった。さらに、学生実験実習経費は昨年度の方式を踏襲し重点配分と

した。これら以外は、費目の名称変更や金額の見直しは行うものの大枠は昨年どおりとした。これらの予算編成の基本方針について予算委員会で審議し、教授会で承認を得た。

この基本方針に基づき、再度、学部長、評議員、事務長、事務長補佐、会計係長、予算委員長で平成 17 年度予算配分案の検討を行い、3 月 17 日の予算委員会で審議した。学生当経費の学部 1 年次生分については、平成 17 年度は 2 年次生以上と同様に学科に配分することにした。予算配分表の事項の見直し、各種委員会経費の検討を行った。なお、法人化により法令に基づく改修を行わなければならないことが明らかになり、その費用を計上した。

また、関連する事柄として、平成 17 年度については発達支援インスティテュート事業費として概算要求が認められ、これらは運営委員会で別途審議され執行することになっている。これまでは研究費を講座に配分していたが、財務会計システム上、コース共通予算や学科共通予算に加えて教員個人への配分を行うことになった。

(予算委員会委員長 寺門靖高)

### 3-7-5. セクシュアル・ハラスメント防止対策委員会

本年度は、平成 16 年 4 月に Newsletter No.5 を発行し、全ての構成員に配布した。同月に開催された新入生ガイダンスでは、これを用いて、セクシュアル・ハラスメントの加害者にならないように注意を喚起するとともに、被害を受けたときの対処法について説明した。さらに、5 月、12 月にセクシュアル・ハラスメント防止のポスターを発達科学部内の各施設に掲示するとともに、12 月初めに、翌年 1 月にセクシュアル・ハラスメント実態調査を実施する旨の通知を出し、年末年始におけるセクシュアル・ハラスメントを未然に防止しようと試みた。平成 17 年 1 月 17 日から 2 週間をかけて、セクシュアル・ハラスメントの実態調査を実施した。調査結果について教授会で報告し、注意を喚起した。その結果に基づいて、発達科学部における今後のセクシュアル・ハラスメント防止対策について検討し、次期委員会委員に申し送りをした。

(セクシュアル・ハラスメント防止対策委員会副委員長 市橋秀樹)

### 3-7-6. 情報システム委員会

#### 1. 情報教育設備室の運営管理部門

##### (1) 運営状況

##### 概要

情報教育設備室 (Room for Information Education: 以下, RIE) は、発達科学部情報システム委員会によって運営される情報教育を行うための設備室である。昭和 63 年 4 月に当時の教育学部で開設され、平成 13 年 4 月からは、学術情報基盤センター (当時、総合情報処理センター) の発達科学部分室としての役割も果たすようになっている。学術情報基盤センターによって導入されたセンターシステムに加え、情報システム委員会としてハードウェア及びソフトウェア環境を独自に整え、利用者の環境改善に努めている。

##### 主な設備

発達科学部構内 F 棟 1 階, F158 室における主な設備と台数を次の表に示す。なお, F158 室は大教室と自習室に区画分けされており, 収容可能人数は, 大教室が約 40 人, 自習室が約 10 人である。

区画	管轄	名称	数	備考 OS 等
大教室	センターシステム	学生用 PC	40	Windows2000
		入出力用 PC	1	Windows2000
		スキャナ	1	
		外付 MO ドライブ	1	
		モノクロレーザプリンタ	2	
	当委員会	授業者補助 PC	1	Windows2000
	分配システム	1	20 台へ分配	
		書画カメラ	1	
自習室	当委員会	PC	5	Mac OS9
		SPSS 利用者優先 PC	5	Windows2000
		外付 MO ドライブ	5	
		モノクロレーザプリンタ	2	

(2) 当部門における本年度の主な活動内容

授業利用，利用者支援及び RIE の管理・運営などは，通常の業務活動であるので割愛し，本年度の特記すべき活動を以下に示す。

[平成 16 年 6 月 25 日] 高校生による見学

県立芦屋高等学校の生徒 35 名が RIE を訪れた。訪問時は授業が行われておらず学生に開放している時間帯であったので，RIE の設備とその環境を使ってレポート課題や自習に取り組む学生の姿を見学した。

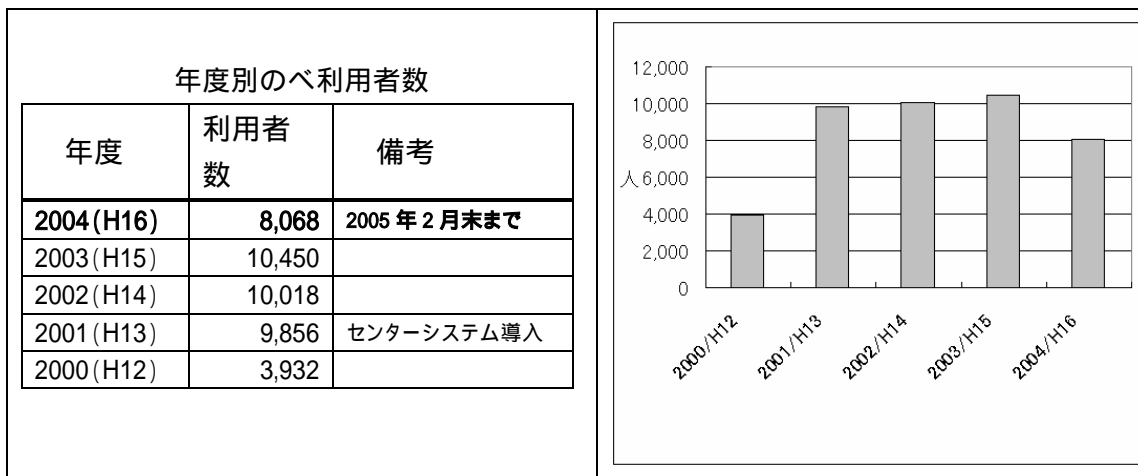
次期センターシステム導入のための準備作業

- ・ [平成 16 年 5 月 28 日～ 6 月 7 日] 学術情報基盤センター調整会議の構成員である宮田 任寿助教授（のち，情報システム委員会委員に任命される。）と RIE（発達科学部分室）へ導入される次期センターシステムの要望を検討した。RIE への導入希望台数は 60 台とし，具体的なソフトウェアの要望を示した。
- ・ [平成 17 年 1 月 18 日～ 1 月 25 日] 60 台の導入に関し，端末の利用計画，端末及びプリンタの配置図を作成し，情報企画課センターシステム係に提出する内容を検討し提出した。
- ・ [平成 17 年 1 月 21 日～ 1 月 25 日] 次期センターシステム導入に関わる発達学部負担額の見積りを行った。
- ・ 今後の動きは，平成 17 年 4 月以降に活発になると予想される。

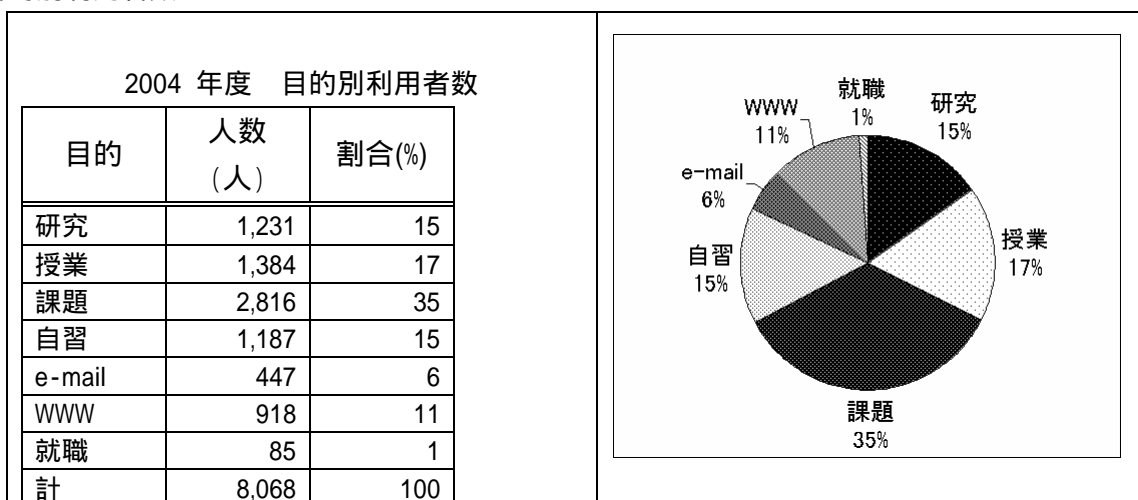
(3) 利用状況

以下に、利用状況データを示す。ただし、本年度のデータは平成16年4月～平成17年2月までのものである。

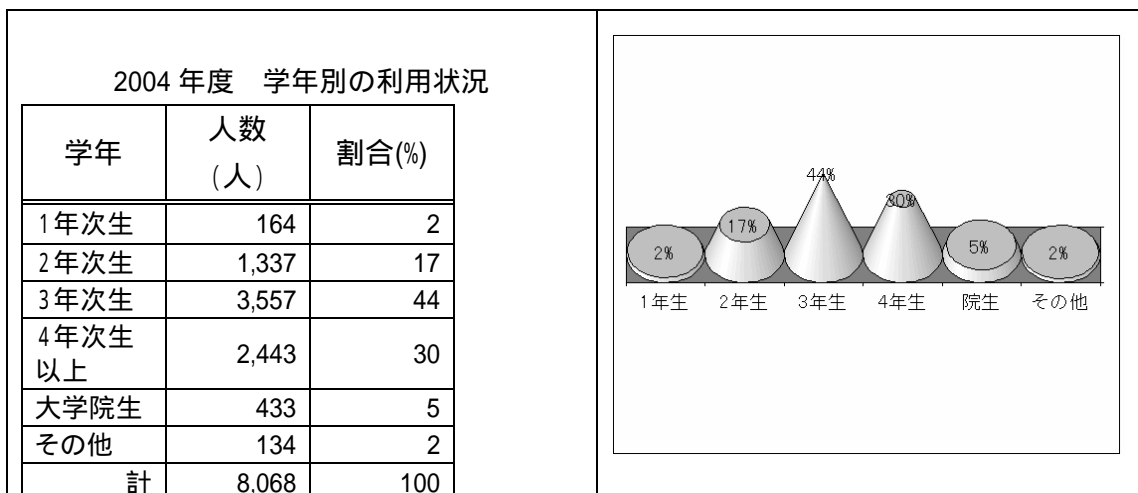
年度別のべ利用者数



目的別利用者数



学年別利用者数



## 授業による利用

授業による利用は、以下のとおり

	2004 年度 授業による利用	
	(前期)	(後期)
正規授業	7 科目	6 科目
集中講義	1 科目	なし
その他	1 科目	2 科目
計	9 科目	8 科目

## データ分析ソフトウェア (SPSS) の利用

自習室に設置している 5 台の PC は、データ分析ソフトウェア (SPSS) の利用者を優先とするために利用者登録をしている。今年度の新規登録者数は 49 名であり、その内訳は、

授業のため 27 名

研究のため 22 名

となっている。特に、12 月～1 月は、卒業・修了研究に有効かつ有意義に使用された様子であった。

## 時間外利用

RIE を時間外利用する希望者にセコムの磁気カードを貸与している。今年度の貸与数は、  
教職員 8 名

学生 8 名

の計 16 名であり、新規の貸与者のためのセキュリティ講習会を今年度は 3 回行った。

## (4) 現在検討中の課題

次期センターシステムは、平成 18 年度から稼動する予定である。更新されるセンターシステムについては、よりよい環境が整うように要望を提出していく必要がある。また、この更新に伴い、学術情報基盤センターの発達科学部分室である当室が、情報システム委員会が運営する RIE として独自性や特長をもつ環境にすることが望ましい。例えば、授業環境を整えることも RIE としての独自性や特長であると考えている。

## 2. ネットワーク運営管理部門

### (1) 平成 16 年度の報告

#### 予定的活動

#### a. サーバ管理

次の 11 台のサーバの管理を行っている。

- 学部のウェブサーバ (2 台)
- 学部の DNS サーバ (2 台)
- 住吉校のウェブ・メールサーバ
- 養護学校のウェブ・メールサーバ
- 附属校園のウェブプロキシサーバ (3 台)
- ウェブプロキシのログ蓄積サーバ
- 作業用ファイルサーバ

## b. ML メンテナンス

次の5つのML（メーリングリスト）のメンテナンスを行っている。

- faculty - 発達科学部教員を対象とする広報，案内及び通知等の情報伝達 ML（情報開示の対象）
- forum - 発達科学部に係る任意の話題の議論用 ML（情報非開示）
- info - 発達科学部サイトの問い合わせ先メールアドレス
- staff-net - 発達科学部の IP アドレス管理責任者 ML（お知らせ専用）
- syo-staff - 附属住吉小学校の教員 ML

## c. 附属校園のネットワーク更新

附属校園（明石校園，住吉校，養護学校）の上流のネットワーク回線を，低速な専用線から高速な光ファイバー回線に変更し，同時に各校園内のネットワーク構成を変更する作業を平成16年度の事業として進めている。このネットワーク更新作業により，回線速度の底上げと，ネットワークの耐障害性の向上を主に見込んでいる。作業は平成17年3月末に終了する予定である。

## d. 「発達ホール」への情報コンセント設置

発達科学部 A 棟1階に平成17年3月中旬にオープンした「発達ホール」に，学生用の認証付き情報コンセントを設置した。情報コンセントの認証には，学術情報基盤センターが運営する全学用の認証システム（学籍番号でログイン可能）を利用する。この情報コンセントの上流のネットワークとしては，発達科学部 A 棟2階の図書館にすでに配線されているものを延長して用いていた。

## e. 実習観察園への学内 LAN 整備

IP reachable ではない発達科学部実習観察園に，平成16年度から学内 LAN を整備した。二点の間に公道が走っているという地理的な制約により有線 LAN を導入することは不可能なため，発達科学部 A 棟と実習観察園の間を無線 LAN で結ぶ。無線 LAN 機器の選定や設置場所などの検討を，今後行う予定である。

## f. ネットワークインフラ関係

発達科学部と附属校園のネットワークインフラに関わるトラブルを，次の表に記す。

トラブル発生日	状況と対応
2004/6/14	学部のウェブサーバが授業中の大量アクセスを受けて機能不調 サーバの再起動で復旧 / 過剰な負荷の原因となった学部サイトの トップページのSSIを改良（電子情報専門委員会マター）
2004/7	発達科学部G棟に設置されているエッジスイッチが機能を停止 エッジスイッチを交換して復旧
2004/8/10	明石校園に設置されているウェブプロキシサーバが機能を停止 別のPCでウェブプロキシサーバを構築して復旧
2004/9/3	学部のDNSサーバのDNSサービスが停止 サーバの再起動で復旧
2004/9/8	発達科学部A棟に設置されているエッジスイッチが機能を停止 エッジスイッチを交換して復旧
2004/11/29	発達科学部A棟に設置されている部局スイッチのポートユニットが機能を停止 ユニットを交換して復旧
2005/2/7	住吉校園に設置されているウェブプロキシサーバが機能を停止 別のPCでウェブプロキシサーバを構築して復旧

ネットワークインフラに関わるトラブルは広範囲に影響を及ぼし，また，問題箇所の特

定にある程度の時間がかかってしまう（一般ユーザには特定自体が難しい）。このようなトラブルに迅速に対応するために，平成 16 年 11 月にサーバ監視ソフトを導入した。現在このソフトを用いて，発達科学部に設置されているサーバ・サービスや附属校園に設置されているスイッチの 24 時間監視を行っている。

#### g. ウイルス関係

発達科学部と附属校園でのコンピュータウイルスに関わる対応を，次の表に記す。のべ 18 台の PC (OS: Windows) からウイルスを駆除した。

対応日	ウイルスの種類と感染PCの台数					
	Netsky.Q	Nachi.worm.B	W32.Gaobot.BIE	sdbot	WORM_MYDOOM.AM	W32/MoFei.worm
2004/4/8	1					
2004/4/19		1				
2004/4/20		1				
2004/4/22		1				
2004/4/30		1				
2004/6/9	2					
2004/6/11	1					
2004/9/15				2		
2004/9/16				2		
2004/11/16					2	
2005/1/30						1
2005/2/2						
						3

#### h. その他のインシデント（スパム投稿について）

平成 17 年 2 月 2 日に，本学の企画部情報企画課から「発達科学部に割り当てられている IP アドレスからスパム投稿（具体的には blog への trackback spam）が行われた」との連絡があった。これは，学外のサイト管理者からの連絡を受けてのものである。本委員会での調査の結果，該当の IP アドレスは「学部構成員に現在割り当てを行っていないもの」であると分かった。また，この IP アドレスを用いた通信は学内のルータやプロキシサーバにおいて平成 17 年 3 月時点で確認できていない模様である。今回のスパム投稿は，投稿された文面が Web 上で広く発見できることなどから判断して，組織的に行われた，「学外における IP アドレスの詐称」である可能性が高いと見ている。これを学内サイドで防ぐ技術的な手だてではない。このようなインシデント発生に備えて可能なことといえば，「学内の IP アドレスはインシデントに関与していない」という確かな証拠を外部に提示できるよう，IP アドレスやトラフィックの確実な管理を定常的に行っておくことであろう。

#### (2) 平成 17 年度の課題

##### 個人情報保護法への対応

平成 17 年 4 月 1 日から「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」（平成 15 年法律第 59 号）が施行される。これに際し，本委員会では，情報管理の面，具体的にはネットワーク・サーバの管理の面から，個人情報に関するインシデントが発生することがないように，これまで以上に厳重な管理を行う必要がある。また，学部構成員（附属校園構成員を含む）へのサポートも最大限行わなければならない。

##### ファイル共有基盤整備の必要性

「学内や学外の研究員との間でファイル共有を行いたい」という要望が，学部内に少なからずあるようである。平成 16 年 4 月 1 日に制定された「神戸大学情報セキュリティポリシー」によると，研究情報を学外とやりとりする際には通信の暗号化が必須だと解釈できる。



一方、そのようなファイル共有基盤を一般の（普通に PC を扱うレベルの）ユーザが実現することは現時点では技術的に難しい。具体的には例えば、「ネットワーク HDD」を購入してきて設置・管理するだけでは、通信の暗号化を実現できない。よって、情報セキュリティポリシーに従ったファイル共有を一般ユーザが実現できる基盤を、本委員会において整備する必要があると考えている。

（情報システム委員会委員長 五味克久）

### 3-7-7．安全衛生委員会

平成 16 年 5 月 12 日に発達科学部安全衛生委員会を発足し、発達科学部の教員・職員の健康管理，作業環境管理の観点から活動を行った。

#### 1．健康管理

教職員の健康診断の受診が 100%となるよう、教授会や学内メールを通して受診を促し、教職員の健康管理を実施した。

#### 2．作業環境管理

(1) 平成 16 年 7 月 13 日に産業医の巡視が G 棟で実施され、以下の指摘を受け、改善を行った。

廊下通路の不要物の整理，高位置の重量物

通路の不要物を整理し，緊急時の避難通路を確保し，高位置の重量物の落下の防止を行った。

ガスボンベの危険防止措置

固定の処置を実施し，不使用のものは業者に引き取らせた。

有機溶媒などの廃液の保管

定期回収まで廃液専用保管庫に保管する。

実験室におけるその他の危険防止

化学薬品を用いる実験・実習では実験用ゴーグルや手袋を着用する。

消火器の適切な配置

消火器を所定の位置に置き，周囲を整理した。

黒板周囲のチョーク粉の散乱

チョーク粉の清掃をこまめに実施した。

棚等の転倒防止

実験講座の研究室と実験室の本棚・保管庫に L 字金具（53 室 631 個）を取り付けた。今後，他の講座についても実施する予定である。

G214 実験室の有機溶剤エーテル臭の換気

換気を十分行うよう指導し，換気設備を改修した。

(2) 学舎の巡視

8 月 10 日に発達科学部 A 棟と F 棟の巡視を実施した。巡視結果，廊下に放置されている不要物の整理等，所有者・管理者に改善要求を行った。

10 月以降，発達科学部全学舎を定期的に巡視し，問題箇所を教授会や学内メールで指摘し，改善を依頼した。

をもとに，以下の改善を委員会でも実施した。

#### 廊下に不要物を放置

- ・ A 棟，C 棟，F 棟及び G 棟

#### [ 改善措置等 ]

A 棟，C 棟及び F 棟については，現場を確認済であるが，G 棟は未確認である。

今後，物品などを放置しているものは，学科単位で対応策を依頼し，対処する。

なお，この件に関しては，2 月 23 日の教授会で説明した。

#### 蛍光灯の玉切れ

- ・ A 棟，F 棟の廊下及び階段
- ・ B 棟から F 棟への通路の蛍光灯が暗い
- ・ A 棟から B 棟への通路の蛍光灯が暗い

#### [ 改善措置等 ]

蛍光灯の玉切れについては，蛍光灯（20W・40W）約 100 本を交換したが，蛍光灯が在庫切れとなったため，未交換場所については新たに購入しに交換した。

蛍光灯を交換しても点灯しない場所（スイッチの不良など）については，業者に調査を依頼した。

#### 消火器の設置状況

- ・ 表示の設置場所に消火器が置かれていない（A 棟 2 階西通路）
- ・ 専用台の無いものがある

#### [ 改善措置等 ]

消火器及び専用台の設置については，本年 3 月に実施予定の消防設備点検（業者委託）の結果を含め対応する予定であること。

#### トイレの状況

- ・ 鍵破損（A 棟 1 階男子）
- ・ タンクの水漏れ（A 棟 7 階女子）
- ・ 便器の水溜まり部分の水の色が濁って見える（B 棟）
- ・ 清掃が不十分（C 棟）
- ・ 手洗いの水道が故障（G 棟）

#### [ 改善措置等 ]

鍵の破損及びタンクの水漏れについては，業者に修理を依頼した。

便器の水溜まり部分の変色と清掃が不十分については，便器の交換が必要。（新年度対応予定）

手洗いの水道の故障については，現在，予備電源として乾電池を用いているが，休日が続くと電池切れで水が出なくなるため，予備電源のあり方も含め抜本的な改修が必要であること。

#### 体育館

- ・ 山側扉が壊れたままである
- ・ 非常口破損
- ・ 山側の倉庫が傷んでいる

#### [ 改善措置等 ]

山側扉及び非常口については業者に発注済であること。（修繕完了）

山側倉庫については、未確認であり利用及び損傷状況などを調査し対応する予定であること。

#### D 棟 2 階手摺りの破損

##### [ 改善措置等 ]

破損状況など現状を確認の上対応する予定であること。

#### F260 号室更衣ロッカー撤去

##### [ 改善措置等 ]

F260 号室の更衣ロッカーは、2 月末を目途に使用状況などを確認の上、不要であったためした。

#### F 棟から B 棟（2 階）及び A 棟（3 階）への扉の故障

##### [ 改善措置等 ]

故障箇所など現状を確認のうえ各扉を補修した。

#### G 棟廃液タンクの放置

##### [ 改善措置等 ]

満杯となった実験廃液ポリタンクについては、昨年 9 月から環境管理センターに廃液処理を依頼するまでの間、構内東側の廃液保管庫に保管し、実験室や廊下などに放置しないこととしているため、再度書面などにより周知徹底すること。

夜間駐輪場辺りのイノシシよけの鉄線が切れている

##### [ 改善措置等 ]

現状は確認済で、可能な限り早期執行する予定であること。

#### (3) 教員研究室

教員研究室に関しては、チェックリストをある間隔で配布し、研究室の整理・整頓を依頼した。

#### (4) 巡視結果の活用

定期的な学舎の巡視により指摘された点の改善は学科単位で行うこととした。具体的には以下の手順で実施した。安全衛生委員会の巡視結果 学科へ改善要求 学科が改善方法と期間を安全衛生委員会に回答し、実施 安全衛生委員会が改善を確認

#### (5) 課題

巡視結果の改善が不十分であったので、(4)の方法により改善が推進されるように工夫する。

教員研究室のチェックリストの活用

避難訓練等の実施

（安全衛生委員会委員長 近藤徳彦）